

A. 日 時 2017年3月10日 金曜日 17:30～19:00

B. 場 所 建築学会会議室

C. 出席者 横山主査 他7名

D. 提出資料（提出委員名）

No.7-1 第6回居住性能評価指針改定小委員会兼第4回居住性能評価指針刊行小委員会
議事録案

No.7-2 第17回性能評価法検討WG議事録案

No.7-3 居住性能評価指針本文案

No.7-4 第17回性能評価法検討WG資料

No.7-5 第35回環境振動シンポジウム発表スライド

E. 議事内容

1. 前回議事録案の確認

資料7-1に基づき前回議事録案の確認があり、承認された。

2. 性能評価法検討WG報告

WG主査より、資料7-2～5に基づき、3月1日に開催されたWGの内容が報告された。

・鉛直振動の評価指針案（資料7-2,3）

－ マトリックスとの親和性や水平との整合性を考慮し、評価レベルの定義を領域による定義に変更したこと、およびF曲線を削除すること、が報告された

→ 了承された。学術的根拠を解説に示すことが確認された。

－ 継続時間算出の説明においてデシベル表記を避けることが検討されたが、「実効値」の解釈などに読者の誤解を生む可能性が考えられたため、本文中にはデシベル表記を残す提案となったことが報告された

→ 了承された。算出方法や用語の定義があいまいにならないよう、式や計算方法などの詳細を、例を含めて解説に示すこととなった

→ 計算用プログラムの公開を検討する必要はないか、との意見があった。

→ 必要に応じて、設計指針において、継続時間や低減係数の簡易的な決定方法を検討することが確認された

－ 本文案はおおよそ書き終わっているので、解説案の執筆を進めることとなった

・水平振動の評価指針案（資料7-2,4,5）

－ 非定常的な振動の評価に関して、2つの案が検討されていることが報告された

→ 継続時間を考慮した評価指針案とすることが了承された

→ 利用可能な根拠に基づいた提案とすることが了承された

→ 今後も知見の蓄積を続けることの必要性が確認され、今回の改定に間に合えば、それらを基に提案を微修正することも検討することとした

→ これまでも要望のあった水平と鉛直の整合性を考慮し、非定常的な振動の評価に関しては、鉛直振動と同様の方法として、性能評価法検討WGで指針本文案を検討することとした

3. 指針改定の時期について

指針改定の時期について意見交換し、2017年度末には原稿を完成することを目指して作業を進めることとした。

4. 今後の予定

次回委員会は、6月8日（木）17:30 から開催することとした。

以上